

# Veritas Access 7.2.1 リリースノート

Linux

7.2.1

# Veritas Access リリースノート

最終更新: 2017-05-10

マニュアルバージョン: 7.2.1 Rev 1

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2017 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas InfoScale、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の社名は各社の商標です。

この製品には、サードパーティに帰属するサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーウェアのライセンスの下で利用できます。このソフトウェアに付属の使用許諾契約によって、このようなオープンソースまたはフリーウェアのライセンスでお客様が有することのできる権利または義務は変更されないものとします。この Veritas 製品に伴うサードパーティの法的通知と登録商標の文書、または以下を参照してください。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本マニュアルに記載された製品は、その使用、コピー、配布、逆コンパイル/リバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて配布されています。Veritas Technologies LLC およびその使用許諾者が事前に書面で承諾しない限り、いかなる形式でも本マニュアルを複製することはできません。

本書は「現状有姿のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、不侵害の黙示的な保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明、保証は、この免責が法的に無効であるとみなされないかぎり、免責されるものとします。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は、本書の供給、性能、使用に関係する付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

使用許諾されたソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 で定義された商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritas によってオンプレミスまたはホストサービスとして提供されたかどうかに関係なく、FAR の 52.227-19 条「Commercial Computer Software - Restricted Rights」および DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その他の後継規制の規定により制限された権利の対象となります。使用許諾されたソフトウェアおよび文書の米国政府による修正、再生リリース、履行、表示または開示は、この契約の条件に従って行われます。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サポート内容とテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

Veritas Account 情報は、次の URL で管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルが最新版であることを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目には最新更新日が記載されています。マニュアルのバージョンは各ガイドの 2 ページ目に記載されています。最新のマニュアルはベリタスの **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに関するご意見やご感想

ご意見、ご感想をお待ちしています。マニュアルに対する改善点の提案や誤植や抜けについての報告をお願いします。送信の際は、マニュアルの題名とバージョン、章、セクションの題名を明記してください。次の宛先にお送りください。

[doc.feedback@veritas.com](mailto:doc.feedback@veritas.com)

また、ベリタスコミュニティのサイトで、マニュアル情報を確認したり質問したりできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Veritas SORT (Services and Operations Readiness Tools)

Veritas SORT (Services and Operations Readiness Tools) は、時間のかかる特定の管理タスクを自動化および単純化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品に応じて、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターのリスクの識別、効率性の改善に役立ちます。使用している製品に対して SORT が提供しているサービスおよびツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>Veritas Access の概要</b> .....	6
	このリリースについて .....	6
	重要なリリース情報 .....	6
	このリリースでの変更点 .....	7
	ローリングアップグレードのサポート .....	7
	インストーラの機能強化 .....	7
	RHEL 6.8、OL 6.6、OL 6.7、OL 6.8 オペレーティングシステムのサ ポート .....	7
	Veritas Access のライセンス .....	7
	スケールアウト型ファイルシステムの更新 .....	8
	AWS クラウドストレージ階層化のサポート .....	8
	OpenStack Cinder ドライバの更新 .....	9
	objectaccess コマンドへの変更 .....	9
	S3 の機能強化 .....	9
	プロトコルの機能強化 .....	9
	Enterprise Vault 認証 .....	9
	仮想マシン環境での Veritas Access .....	9
	GUI への変更 .....	10
	マニュアルセットへの変更 .....	10
	iSCSI ターゲットとしての Veritas Access .....	11
<b>第 2 章</b>	<b>修正された問題</b> .....	12
	前回のリリース以降に修正された問題 .....	12
<b>第 3 章</b>	<b>ソフトウェアの制限事項</b> .....	14
	Flexible Storage Sharing の制限事項 .....	14
	クラスタに DAS ディスクがある場合、インストール時にクラスタ名を 10 文字に制限する必要がある .....	14
	インストールとアップグレードに関する制限事項 .....	15
	Veritas Access のベータ版で表示されるライセンスメッセージ .....	15
	バックアップモードの制限事項 .....	15
	Veritas Access IPv6 の制限事項 .....	15
	FTP create_homedirs の制限事項 .....	16
	Samba ACL のパフォーマンス関連の問題 .....	16

	Veritas Access の言語サポート .....	16
	CLISH を使用する場合に Veritas Access が英語以外の文字をサ ポートしない (3595280) .....	16
	Veritas Access クラスタで InfiniBand NIC を使用する際の制限事項 .....	16
	仮想マシン環境で Veritas Access を使用する際の制限事項 .....	17
	ファイルシステムの制限事項 .....	17
	CLISH から NLM を直接操作すると、システムが不安定になる (IA-1640) .....	17
	Veritas Access S3 サーバーの制限事項 .....	17
<b>第 4 章</b>	<b>既知の問題</b> .....	<b>18</b>
	Veritas Access の既知の問題 .....	18
	バックアップの問題 .....	18
	CIFS の問題 .....	18
	重複排除の問題 .....	19
	FTP の問題 .....	20
	インストールと設定に関する問題 .....	20
	マニュアルページの問題 .....	25
	ネットワークの問題 .....	32
	NFS の問題 .....	33
	ObjectAccess の問題 .....	36
	OpenStack の問題 .....	38
	レプリケーションの問題 .....	38
	SmartIO の問題 .....	41
	ストレージの問題 .....	41
	AWS の問題 .....	49
<b>第 5 章</b>	<b>ヘルプの入手</b> .....	<b>50</b>
	オンラインヘルプの表示 .....	50
	マニュアルページの表示 .....	50
	Veritas Access 製品マニュアルについて .....	50

# Veritas Access の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [このリリースについて](#)
- [重要なリリース情報](#)
- [このリリースでの変更点](#)

## このリリースについて

**Veritas Access** は市販のハードウェアで動作する非構造化データのソフトウェア定義によるスケールアウト型ネットワーク接続ストレージ (NAS) ソリューションです。**Veritas Access** では、耐性、マルチプロトコルアクセス、ポリシーに基づくパブリッククラウド間のデータ移動を実現しています。

本マニュアルでは、このリリースでの変更点など、**Veritas Access** 製品に関するリリース情報を示します。

## 重要なリリース情報

製品のインストール前に、最新情報について次のリリースノート (本マニュアル) を確認してください。

ハードウェア互換性リストには、サポート対象のハードウェアに関する情報が含まれており、定期的に更新されます。ハードウェア互換性リストに記載され、認定を受けた市販のハードウェアを使用できます。サポート対象のハードウェアの最新情報については、次の URL を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000019707>

このリリースに関する重要な更新については、**Veritas** テクニカルサポート Web サイトの最新 **TechNote** を確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/000125916>

## このリリースでの変更点

このセクションでは、Veritas Access 7.2.1 で追加された主な新機能と拡張機能を示します。

### ローリングアップグレードのサポート

Veritas Access のこのリリースでは、7.2.0.2 以降のバージョンからのローリングアップグレードをサポートしています。ローリングアップグレードは、RHEL 6.6 と 6.7 でサポートされています。

### インストーラの機能強化

このリリースには、次のインストーラの機能強化が含まれています。

- Veritas Access のインストールと構成の時間を短縮するパフォーマンスの向上。ゼロ (OS がインストールされている状態) から本番環境まで 40 分以内
- 複数の NTP サーバーのサポート

### RHEL 6.8、OL 6.6、OL 6.7、OL 6.8 オペレーティングシステムのサポート

Veritas Access 7.2.1 リリースでは、RHEL 6 Update 8、OL 6 Update 6、OL 6 Update 7、OL 6 Update 8 (RHEL 互換モードのみ) をサポートします。Veritas Access は RHEL 6 Update 6 と RHEL 6 Update 7 も引き続きサポートします。

### Veritas Access のライセンス

Veritas Access をインストールして使用するには、ライセンスの取得が必要です。

製品をインストールするときに、次のいずれかのライセンス方法を選択できます。

- 永続ライセンス  
永続ライセンスは、Veritas Access を使用するための恒久ライセンスのようなものです。
- サブスクリプションライセンス  
サブスクリプションライセンスは、1 年間の有効期限があるライセンスです。
- 評価モード  
このライセンスは 60 日間使用できる試用版です。

ライセンスプログラムは、`/installaccess -license` コマンドを使用して呼び出せません。

## スケールアウト型ファイルシステムの更新

このリリースには、スケールアウト型ファイルシステムへの次の変更が含まれています。

- 最大 **3 PB** のスケールアウト型ファイルシステムの作成。
- **522 TB** を超えるスケールアウト型ファイルシステムを作成するには、**128 GB** の倍数でスケールアウト型ファイルシステムのサイズの指定が必要です。
- ファイルシステムの拡張操作は最大 **522 TB** までサポートされます。
- スケールアウト型ファイルシステムの縮小操作は、ファイルシステムのサイズが **522 TB** 未満の場合にサポートされます。
- **S3** プロトコルを使用したスケールアウト型ファイルシステムへのアクセス。
- **Amazon Glacier**、**AWS S3**、または **AWS S3 互換** のクラウドストレージ階層化のサポート  
詳しくは、『**Veritas Access Amazon Web Services** クラウドストレージ階層化ソリューションガイド』を参照してください。

詳しくは次のマニュアルページを参照してください。

- `storage_fs.1` マニュアルページ
- `storage_tier.1` マニュアルページ

## AWS クラウドストレージ階層化のサポート

**Veritas Access** でクラウドの階層化を設定すると、スケールアウト型ファイルシステムに格納されているデータをオンプレミス層とクラウド層の間でインテリジェントに移動できます。**Veritas Access** は、自動化されたポリシー管理に基づいて、データをオンプレミスから **Amazon Glacier**、**AWS S3**、または **S3 互換** に直接移動します。

次の **AWS** クラウドストレージ層を追加できます。

- **Amazon Glacier** - ほとんどアクセスされないデータを格納するための層で、数時間の取得の遅延が許容される
- **AWS S3** - さまざまなオブジェクト (多くの場合、イメージとビデオ) を格納するための層
- **AWS S3 互換** - さまざまなオブジェクト (多くの場合、イメージとビデオ) を格納するための層  
**S3 互換** は、**Amazon S3 API** の任意のサードパーティ実装です。

詳しくは、『**Veritas Access Amazon Web Services** クラウドストレージ階層化ソリューションガイド』を参照してください。



## OpenStack Cinder ドライバの更新

Veritas Access OpenStack Cinder ドライバは、OpenStack の Mitaka、Newton、および Okata のリリースでサポートされています。

## objectaccess コマンドへの変更

`objectaccess_share` コマンドは非推奨です。

詳しくは `objectaccess` のマニュアルページを参照してください。

## S3 の機能強化

このリリースでは、次の S3 の機能強化が行われています。

- 1 つのバケットをファイルシステムのサイズの上限まで拡張できます。
- ユーザーグループを通じて、バケットに使用するストレージの分類ができます。
- Veritas Access を NetBackup 7.6.1 以降のバックアップストレージとして使用できます (OpenDedup を使用)。
- 管理者は、ファイルシステムのタイプと、バケットのストレージに使用するその他の設定可能なパラメータを指定できます。
- Veritas Access 7.2.1 では、新しいファイルシステムのタイプであるイレージャコーディング (ecoded) が、テクニカルプレビュー項目として追加されています。
- アクセスと秘密キーの作成は、RESTful API を使用して S3 ユーザーによって行われるため、ストレージ管理者には秘密キーが表示されません。

## プロトコルの機能強化

- SAMBA を 4.x にアップグレード
- S3 の機能拡張

## Enterprise Vault 認証

- Enterprise Vault の非ワームプライマリアーカイブストレージとしての Veritas Access
- Veritas Access は Enterprise Vault 12 の認定プライマリストレージです

## 仮想マシン環境での Veritas Access

Veritas Access は、仮想マシン環境のために次の構成をサポートしています。

VMware ESX

- ローカルディスク:
  - ブートディスク: SCSI コントローラ 0: SCSI バス共有モード「None」
  - データ DAS ディスク: SCSI コントローラ 1: SCSI バス共有モード「Virtual」  
このモードは、DAS ディスクが VxVM のエンクロージャベースの命名 (EBN) モードで宣言され、ディスクが EBN モードの場合にホスト名に VxVM というプレフィックスのみが付くようにするために必要です。これによりアレイに存在する共有 LUN と区別されます。
- 共有ディスク:
  - Raw デバイスマッピング: SCSI コントローラ 2: (SCSI コントローラは DAS/ブートディスクと異なるものにする)

## GUI への変更

次の機能が GUI に追加されました。

- 共有の作成を容易にするためのポリシーベースのテンプレート
- レプリケーションのサポート
- NetBackup の構成
- クラスタレベルでのライセンス管理
- S3 ユーザーの追加と削除のサポート
- S3 ユーザー用のストレージプールの追加と削除のサポート
- スケールアウト型ファイルシステムの自動化されたポリシー管理に基づく、オンプレミスから Amazon Glacier、AWS S3、または AWS S3 互換への直接のインテリジェントな移動のサポート
- ストレージサービスの管理

## マニュアルセットへの変更

Veritas Access マニュアルセットに次のマニュアルが追加されました。

- 『Veritas Access Amazon Web Services クラウドストレージ階層化ソリューションガイド』
- 『Veritas Access Amazon Web Services クイックスタート配備ガイド』
- 『Veritas Access スタートガイド』
- 『Veritas Access NetBackup ソリューションガイド』
- 『Veritas Access RESTful API ガイド』

次のマニュアルは、Veritas Access マニュアルセットから削除されました。

## 『Veritas Access コマンドライン管理者ガイド』

## iSCSI ターゲットとしての Veritas Access

7.2.1 リリースでは、iSCSI ターゲットとしての Veritas Access がプレビュー機能として追加されています。

この機能では、次の機能が利用できます。

- Veritas Access は、ブロックストレージを提供する iSCSI ターゲットとして構成できます。
- iSCSI ターゲットサービスは、Veritas Access クラスタでアクティブ-パッシブモードでホストされます
- 構成すると、クラスタがポータル IP を介して任意の標準 iSCSI イニシエータで利用可能になります。
- iSCSI ターゲットでは、次の機能を実行できます。
  - iSCSI ターゲットサービスの開始と停止
  - ターゲットの追加と削除
  - LUN の追加と削除
  - イニシエータのマップとマップ解除
  - ユーザーの追加と削除
- 詳しくは、target マニュアルページを参照してください。

この機能には、次の制限事項があります。

- テスト中のフォールト挿入シナリオは対象外です。そのため、iSCSI 機能が予想どおりに動作しません。
- 残りの Veritas Access コードとの厳密な統合は不完全です。  
たとえば、iSCSI ターゲット用のバックিংストアであるファイルシステムは、NFS 経由で引き続き共有できます。理想的には、これは許可すべきではありません。
- パフォーマンステストが完了していません。

# 修正された問題

この章では以下の項目について説明しています。

- [前回のリリース以降に修正された問題](#)

## 前回のリリース以降に修正された問題

このセクションでは、前回のリリース以降に修正された問題について説明します。

表 2-1 前回のリリース以降に修正された問題

修正された問題	説明
IA-3217	fusion-io ディスク用の <code>Storage&gt; disk remove</code> で fusion-io ディスクが削除できない
IA-3293	<code>Storage&gt; scanbus force</code> コマンドでエラーが発生する
IA-3330	インストーラが Veritas Access のクラスタノードを自動的に再起動しない
IA-3358	すべての SSD が含まれるプールでファイルシステムの作成に失敗する
IA-3365	DAS ディスクを含むノードのいずれかが停止している場合、 <code>Storage&gt; pool destroy</code> で失敗が表示される
IA-3113	ファイルシステムがマルチティアの場合、検出に失敗する
IA-4282	GUI で警告とタスクの時間が正しく計算されない
IA-3551	[GUI - リブート後のノード]と[ローカルディスク]が GUI で表示されない
IA-5088	ノードが失敗またはシャットダウンしても、アラート(ダッシュボード経由)が発生しない
IA-5087	クラスタノードのステータスが正しく表示されない

修正された問題	説明
IA-5086	GUI の FS 名が 25 文字に制限されている

# ソフトウェアの制限事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [Flexible Storage Sharing](#) の制限事項
- [インストールとアップグレードに関する制限事項](#)
- [バックアップモードの制限事項](#)
- [Veritas Access IPv6](#) の制限事項
- [FTP create\\_homedirs](#) の制限事項
- [Samba ACL](#) のパフォーマンス関連の問題
- [Veritas Access](#) の言語サポート
- [Veritas Access クラスタで InfiniBand NIC](#) を使用する際の制限事項
- [仮想マシン環境で Veritas Access](#) を使用する際の制限事項
- [ファイルシステムの制限事項](#)
- [Veritas Access S3 サーバーの制限事項](#)

## Flexible Storage Sharing の制限事項

次の問題は Veritas Access の Flexible Storage Sharing (FSS) に関連しています。

### クラスタに DAS ディスクがある場合、インストール時にクラスタ名を 10 文字に制限する必要がある

DAS ディスクをフォーマットすると、ディスクに一意の名前が与えられます。この名前には、埋め込みクラスタ名が含まれます。DAS ディスク名には、25 文字の制限があります。

DAS ディスクを持つクラスタの名前を選択する場合は、クラスタ名を 10 文字に制限する必要があります。

## インストールとアップグレードに関する制限事項

次の制限事項はインストールとアップグレードに関するものです。

### Veritas Access のベータ版で表示されるライセンスメッセージ

Veritas Access のベータ版には一時的なライセンスキーがあります。製品のベータ版をインストールすると、60 日後に次のようなライセンスメッセージが表示され始めます。

```
WARNING V-365-1-1 This host is not entitled to run Veritas Storage
Foundation/Veritas Cluster Server.
As set forth in the End User License Agreement (EULA) you must complete one of the
two options set forth below. To comply with this condition of
the EULA and stop logging of this message, you have 0 days to either:
- make this host managed by a Management Server
(see http://go.veritas.com/sfhakeyless for details and free download), or
- add a valid license key matching the functionality in use on this host using the
command 'vxlicinst' and validate using the command 'vxkeyless set NONE'.
```

ベータ版の場合、これらのライセンスメッセージは回避できません。記述されている 2 つの方法は Veritas Access に適用されません。

Veritas Access の GA 版には永久キーがあります。

## バックアップモードの制限事項

Cluster> del 操作中にバックアップグループがオンラインになっている場合、Cluster> del 操作は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CPI WARNING V-9-40-6450 Active backup jobs are running on access_01.
Deleting this node from the cluster may cause the backup to fail.
```

## Veritas Access IPv6 の制限事項

次の Veritas Access モジュールは IPv6 でサポートされていません。

- NIS

次の IPv6 の機能は CIFS でサポートされていません。

- CIFS では、ドメインコントローラに対し IPv4/IPv6 の複合モードはサポートされていません。IPv4 DNS エントリは DNS サーバーから削除する必要があります。

- CIFS では、Veritas Access CLI のドメインコントローラの IPv6 アドレスが許可されません。ホスト名のみをドメインコントローラのエントリに使用できます。

## FTP create\_homedirs の制限事項

制限事項のため、create\_homedirs オプションが yes に設定されていても、ユーザーのログオンディレクトリを手動で作成する必要があります。

## Samba ACL のパフォーマンス関連の問題

ACL の改善 (attr ノードの数が少ないこと) が有効になるように、ファイルとディレクトリを作成するためのデフォルトのマスクは 775 に設定されています。以前は、作成マスクは 744 に設定されていました。

マスクが 775 から変更された場合、マスクの変更時に POSIX ACL の計算が大幅に変更されるため、ACL の改善が有効とならない可能性があります。

パフォーマンスの向上は、ファイルのオープンモードにも依存します。現在の実装では、Windows エクスプローラまたはコマンドウィンドウを使用して通常のファイルを開くと見なしています。親ディレクトリの権限と、Windows クライアントから発行された実際のオープン要求に応じて、Samba が異なるオープンモードで計算する場合があります。これらの考慮事項が、実際のパフォーマンス向上に影響します。

## Veritas Access の言語サポート

Veritas Access は英語のみをサポートしています。

### CLISH を使用する場合に Veritas Access が英語以外の文字をサポートしない (3595280)

Veritas Access CLISH は、英語の文字のみをサポートしています。CIFS 共有などのファイル名に、英語以外の文字を含めないでください。たとえば、次のコマンドはサポートされません。

```
access> cifs share add sample "simfs01/サンプル"
```

## Veritas Access クラスタで InfiniBand NIC を使用する際の制限事項

- InfiniBand NIC は、NIC がパブリックネットワークに接続されている場合、または除外されている場合を除き、プライベート NIC としての使用が推奨されます。



- NIC 結合機能は、PCI ID が同じネットワークカード上の NIC と同一である場合、InfiniBand NIC でサポートされないことがあります。

---

メモ: これは Mellanox カードで発生します。

---

- NIC 除外機能は InfiniBand NIC でサポートされていますが、同じ PCI ID を持つすべての NIC が除外操作中に除外されます。

---

メモ: これは Mellanox カードで発生します。

---

- 新しく追加したノードでは、InfiniBand NIC と同じ設定の共有が必要です。たとえば、Veritas Access クラスタが RDMA 上で LLT を使用する場合、新しく追加したノードでは、RDMA NIC をプライベート NIC として接続する必要があります。
- Veritas Access は LLT の混在接続をサポートしていません。つまり、RDMA 上で LLT を使用する場合は、クラスタノード内のすべてのノードで InfiniBand NIC の指定が必要です。それ以外の場合は、Veritas Access インストール中に InfiniBand NIC を除外するための NIC 除外機能を使用します。

## 仮想マシン環境で Veritas Access を使用する際の制限事項

Veritas Access は物理マシンにインストールする必要があります。Veritas Access は仮想マシン環境ではサポートされません。

## ファイルシステムの制限事項

次の問題は Veritas Access ファイルシステムに関連しています。

### CLISH から NLM を直接操作すると、システムが不安定になる (IA-1640)

ネットワーククックマネージャ (NLM) で CLISH からファイルシステム関連の操作を実行しないでください。この用途は内部向けです。NLM を使用する場合、Veritas Access はクラスタの安定性を保証できません。

## Veritas Access S3 サーバーの制限事項

Veritas Access S3 サーバーは、S3 互換ティアとしてスケールアウト型ファイルシステムには追加できません。

# 既知の問題

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Access](#) の既知の問題

## Veritas Access の既知の問題

次の既知の問題は、[Veritas Access](#) のコマンドに関連しています。

### バックアップの問題

このセクションでは、バックアップに関連する既知の問題について説明します。

**SAN クライアントが有効になっている場合、BackupGrp が他のノードに切り替えられるかフェールオーバーされた後に、バックアップまたは復元のステータスに無効なステータスが表示される (3606322)**

SAN を介したバックアップジョブまたは復元ジョブが進行中で、BackupGrp が他のノードに切り替えられるかフェールオーバーされた場合、CLISH 内のバックアップジョブのステータスオプションに正しくないステータスが表示されることがあります。

回避策:

回避策はありません。

### CIFS の問題

このセクションでは、CIFS に関連する既知の問題について説明します。

## homedir のリストに付加または追加されたファイルシステムでクォータを有効にできない (3853674)

Storage> quota cifshomedir コマンドを有効にしてから、追加ファイルシステムを cifshomedir に設定すると、デフォルトでクォータが有効になりません。クォータを有効にするには、Storage> quota cifshomedir enable コマンドを使用する場合、ファイルシステムを cifshomedir に指定した順番に応じて、成功したりしなかったりします。

Storage> quota cifshomedir enable コマンドは、cifshomedir リストの最初のファイルシステムしか確認しません。このファイルシステムでクォータがすでに有効になっている場合、リスト内の残りのファイルシステムでクォータが有効になりません。

回避策:

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 Storage> quota cifshomedir disable コマンドを実行します。これにより、すべての homedir ファイルシステムでクォータが無効になります。
- 2 Storage> quota cifshomedir enable コマンドを実行します。これにより、すべての homedir ファイルシステムでクォータが有効になります。

## CIFS 共有を削除すると、同一ファイルシステム上にある他の CIFS 共有のデフォルトの所有者とグループの権限がリセットされる (3824576、3836861)

CIFS 共有を削除すると、ファイルシステム上の所有者およびグループの権限がデフォルトに戻されます。所有者とグループの両方のデフォルト値が root に設定されます。同一ファイルシステム上に複数の CIFS 共有を持つ場合、この動作が問題になることがあります。また、いずれかの共有を削除すると、そのファイルシステム上の他の共有の所有者とグループもリセットされます。

残りの CIFS 共有の所有者またはグループの権限をすでに設定していても、権限を再び設定する必要があります。

回避策:

残りの CIFS 共有の所有者またはグループの権限をすでに設定していても、次のコマンドを使用して、再び該当するファイルシステム上の CIFS 共有の所有者またはグループの権限の設定が必要です。

```
CIFS> share modify
```

## 重複排除の問題

このセクションでは、重複排除に関連する既知の問題について説明します。

## 重複排除を有効にしたマウントポイントで **lost+found** のファイルを削除すると、重複排除に問題が発生することがある (3472414)

重複排除を有効にしたマウントポイントの場合、lost+found ディレクトリには重複排除に関連するいくつかのファイルが含まれています。lost+found ファイルを削除する場合、重複排除ジョブが正しく動作しないことがあります。

回避策:

lost+found ディレクトリ内の重複排除ファイルを誤って削除した場合は、重複排除を有効にするために次の手順を実行します。

重複排除ジョブを有効にするには

- 1 重複排除ジョブを無効にします。
- 2 重複排除ジョブを有効にします。

## FTP の問題

次の問題は、Veritas Access の FTP コマンドに関連しています。

### ファイルシステムが **FTP の homedir または anonymous\_login\_dir** として使用されていると、このファイルシステムを破棄できない (IA-1876)

FTP には、homedir または anonymous\_login\_dir の値を空に変更する設定解除のコマンドがありません。FTP の **set** コマンドを使用すると、上記の 2 つのフィールドの値を空にできます。一度上記のフィールドのすべてまたはいずれかが更新されたら、他のファイルシステムをポイントするか、空にすることで、元のファイルシステムを破棄できます。

回避策:

FTP> set コマンドを使用して、homedir や anonymous\_login\_dir の値を設定解除します。

```
# isa> ftp set homedir_path
```

## インストールと設定に関する問題

次の問題は、Veritas Access のインストールと設定に関連しています。

## RDMA LLT を使用するノードを再起動すると、LLT が動作しなくなる。または `gabconifg -a` コマンドで状態が危険と表示される (IA-1796)

Veritas Access クラスタノードでは、`iptables` がデフォルトで有効です。`iptables` は RDMA ネットワークの LLT 機能に影響します。

LLT は RDMA ネットワークで通信するために UDP を使用するため、LLT 接続を許可するルールを `iptables` に追加する必要があります。

`iptables` ルールは、LLT モジュールのロード前に反映されます。`iptables` ルールは、VCS の起動 (VCS サービスグループがオンラインになると起動される) 後に実行される Veritas Access スクリプトで管理されます。LLT がロードされると、`iptables` はデフォルト状態になり、UDP 経由の LLT 接続はブロックされます。

回避策:

### RDMA LLT 環境で Veritas Access を新しく設定した場合:

- 1 すべての設定が完了したら、各ノードにログオンし、次のコードを入力して `iptables` を無効にします。

```
# chkconfig --level 123456 iptables off
```

- 2 すべてのノードを再起動します。再起動処理で OPENIB モジュールをアンロードできない場合は、電源管理からノードをリセットします。

### RDMA LLT 環境で Veritas Access ノードを追加する場合:

- 1 ノードの追加が完了したら、各ノードにログインし、次のコードを入力して `iptables` を無効にします。

```
# chkconfig --level 123456 iptables off
```

- 2 すべてのノードを再起動します。再起動処理で OPENIB モジュールをアンロードできない場合は、電源管理からノードをリセットします。

## Veritas Access でスクリプトを個別に実行すると、一貫性のないリターンコードを返すことがある (3796864)

Veritas Access の個別のスクリプトは、別々に実行するものではありません。CLISH は、Veritas Access の操作をサポートする唯一のインターフェースです。Veritas Access スクリプトを個別に実行すると、一部の結果でリターンコードに一貫性がなくなる場合があります。

## SSH 接続がない場合、インストーラを使用した Veritas Access の設定に失敗する (3794964)

インストーラを使用して Veritas Access をインストールおよび設定する場合、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
CPI ERROR V-9-20-1073 Failed to copy /opt/VRTSsnas/conf/conf.tar
```

SSH 接続の喪失により、インストーラが設定ファイルをクラスタ内のノードにコピーできない場合、このメッセージがまれに表示されます。

回避策:

この問題を回避するには:

- 1 SSH 接続を手動で回復します。
- 2 Veritas Access をアンインストールします。
- 3 Veritas Access を再インストールします。

## 応答ファイルを使用して Veritas Access を設定する場合に設定から PCI を除外すると失敗する (3686704)

応答ファイルを使用して Veritas Access を設定すると、Veritas Access で除外のマークが付いた PCI が除外されません。設定中、インストーラが、除外する必要がある NIC をスキップします。

回避策:

標準的な設定方法を使用するか、または応答ファイルで NIC の結合と除外を同時に設定します。

## インストーラで I/O フェンシング設定中にディスクを初期化した直後に、初期化されたディスクが一覧表示されない (3659716)

インストーラがプロセスを開始した後に I/O フェンシングを設定する場合は、少なくとも 3 つの初期化された共有ディスクが必要です。3 つの共有ディスクがない場合、インストーラは共有ディスクを初期化できます。インストーラでディスクを初期化した後、初期化されたディスクがすぐに表示されません。

回避策:

ディスクを初期化した後に、インストーラのリストに新しいディスクが表示されない場合は、数秒待ちます。その後、y を選択して I/O フェンシングの設定を続行します。インストーラに初期化されたディスクが一覧表示されます。

## 2 つのインストールで同時に同じドライバノードが使用されている場合、2 番目のインストールが最初のインストールの進行状況を示す (IA-3446)

Veritas Access インストーラは、同じドライバノードから同時に複数のインストールをサポートしていません。これは仕様です。同じドライバノードから 2 つのインストールを開始すると、2 番目のインストールも最初のインストールの進行状況を示します。

回避策:

同じドライバノードで同時に複数のインストールを実行しないでください。

## 同じドライバノードが 2 つ以上のインストールに同時に使用されると、最初のインストールセッションが終了する (IA-3436)

Veritas Access インストーラは、同じドライバノードから同時に複数のインストールをサポートしていません。これは仕様です。同じドライバノードから 2 つのインストールを開始すると、最初のインストールが終了します。

回避策:

同じドライバノードで同時に複数のインストールを実行しないでください。

## スレーブノードが再起動中、シャットダウン中、またはクラッシュ状態にある場合に `Cluster> show` コマンドを実行すると、例外がスローされる (IA-900)

特定のフローでは、再起動中、シャットダウン中、またはクラッシュ状態にあるノードが実行中の場合、システムは実行中のノードのリストを計算します。コマンドが CPU またはネットワーク統計の計算を開始すると、これらは SSH で到達不能になります。内部のライブラリは例外をスローします。

ノードの状態がシャットダウン、再起動、またはクラッシュ状態になると、Veritas Cluster Server (VCS) でスレーブノードが `RUNNING` から `FAULTED` に変わります。`Cluster> show` コマンドは、通常の動作に戻ります。つまり、例外は表示されず、想定される出力を与えます。

回避策:

この問題に対する回避策はありません。システムは自ら回復します。しばらく待ってから、`Cluster> show` コマンドをもう一度実行します。

## PCI ID の重複が PCI 除外に追加されると、`Cluster> add node name` コマンドが失敗する (IA-1850)

除外する一意の PCI ID を持つ新しいノードを追加するには、`Network> pciexclusion add` コマンドを使用して、CLISH を通してこれら一意の PCI ID を追加する必要があります。Veritas Access の PCI 除外構成にこれらの一意の PCI ID がすでに存在する場

合、結果の構成にはエントリが重複します。PCI 除外の結果の構成後、追加したノードで続行すると、操作は失敗します。Cluster> add node 操作では、PCI 除外構成内の重複するエントリを処理できません。

回避策:

重複した PCI ID を Veritas Access PCI 除外構成ファイルから削除するには、テクニカルサポートにお問い合わせください。削除すると、Cluster> add node コマンドを実行できるようになります。

### クラスタノードからの応答ファイルを使用してインストールを開始すると、NIC セクションの構成後にそのインストールセッションが終了する (IA-3570)

クラスタノードからの応答ファイルを使用して Veritas Access をインストールすると、NIC セクションの構成後にインストールへの接続を回復するための警告メッセージがインストーラで表示されません。

回避策:

- 1 新しいパブリック IP アドレスを使用して、Veritas Access にログインします。
- 2 インストールを続行するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/VRTS/install/bin/tmux attach-session -t VA_INSTALL
```

### システムの検証チェック後に、インストーラによってサードパーティ製の RPM が見つからないという警告メッセージが表示される (IA-3611)

システムの検証チェック後に、インストーラによって必要なサードパーティ製の RPM が見つからないまたは RPM のアップグレードが必要という警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは、検証チェックの正常な完了を示します。

見つからないサードパーティ製の必須 RPM は、インストールプロセス中に Veritas Access ISO イメージからインストールまたはアップグレードされます。

回避策:

この警告メッセージは無視できます。

### installaccess コマンドを使用してクラスタのノードから製品をインストールして構成するときに、インストーラがハングアップしているように見える (IA-5300)

installaccess コマンドを使用してクラスタのノードから製品をインストールして構成しようとする、「Redefining network configurations」セッションの後でインストーラがハング



アップしているように見えます。インストーラはハングアップしているのではなく、実行に時間がかかっているだけです。

回避策:

インストーラが構成を完了するまで待機します。ネットワーク構成が再定義されると、インストーラが残りのタスクを完了するまでに約 20 分かかります。access72 コマンドを使用して、3 番目のノードから製品をインストールして構成することで、この問題を回避することもできます。

## 1 番目のノードでローリングアップグレードの段階 1 が終了後、2 番目のノードでパニックが発生する (IA-5621)

Veritas Access クラスタでローリングアップグレードを実行すると、1 番目のノードで段階 1 が終了した後、2 番目のノードでパニックが発生します。パニックが発生する原因は、1 番目のノードに製品の新しいバージョンがあるのに対し、2 番目のノードにはまだ製品の古いバージョンが残っているからです。

回避策:

2 番目のノードがパニックから復帰するまで待ちます。これには約 10 分かかります。その後、クラスタでローリングアップグレード手順を続行できます。

## RHEL 6.6 で OS インストール中に argparse モジュールがインストールされない (IA-5761)

argparse モジュールは、GUI で S3 バケットの作成に使用されます。RHEL 6.6 では、OS のインストール時に argparse モジュールがインストールされません。手動でインストールする必要があります。

回避策:

次のいずれかのコマンドを使用して、手動で argparse をインストールできます。

```
# easy_install argparse  
  
# yum install argparse
```

## マニュアルページの問題

次の既知の問題は、Veritas Access のマニュアルページに関係します。

### objectaccess\_account のマニュアルページが見つからない

#### 名前

account - S3 ユーザーを一覧表示します。

## 概要

```
account user show
```

## 説明

`ObjectAccess account` コマンドは S3 ユーザーを一覧表示するために使用されます。S3 ユーザーを一覧表示します。

## 例

S3 ユーザーを一覧表示します。

```
earth.ObjectAccess> account user show
AccessKey          UserName
=====
MzhiNzRlNDQ1MDQ1YjB  user1
M2UzZmQzMtK1MjU2MDY  nis-user1-group1
ZTMyYTRlYWwNTE4ZDV  nis-user1-group3
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## **objectaccess\_bucket** のマニュアルページが見つからない

### 名前

`bucket` - S3 ユーザーによって作成されたバケットを一覧表示します。

### 概要

```
bucket show [bucket_name]
```

### 説明

`ObjectAccess bucket show` コマンドは S3 ユーザーによって作成されたバケットを一覧表示するために使用されます。

### オプション

```
bucket [show]
```

S3 ユーザーによって作成されたバケットを一覧表示します。

### 例

S3 ユーザーによって作成されたバケットを一覧表示します。スケールアウト型ファイルシステムで作成されたバケットの場合は、表示された IP を使用してバケットにアクセスします。スケールアウト型ファイルシステムで作成された S3 バケットには、仮想ホストスタイル

の URL (パススタイルの URL ではなく) を使用してアクセスする必要があります。S3 クライアントの DNS は、対応する仮想ホストスタイルの URL のため、この仮想 IP アドレスに更新する必要があります。バケット「scale-out-bucket1」が S3 ユーザーによって作成されている場合、その仮想ホストスタイルの URL が「scale-out-bucket1.s3.cluster\_name:8143」になります。ここで、cluster\_name は Veritas Access クラスタ名で、8143 は S3 サーバーが実行されている Veritas Access のポートです。非スケールアウト型ファイルシステムで作成されたバケットの場合、クラスタの任意の VIP を使用してバケットにアクセスできるため、IP アドレスは適用されません。

```
earth.ObjectAccess> bucket show
```

Bucket Name	Fs Name	Pool(s)	Owner	IP
nis-user1-group1bucket13	S3fs1489227391	pool-group1	nis-user1-group1	-
nis-user1-group1bucket12	S3fs1489224108	pool-s3_2	nis-user1-group1	-
nis-user1-group1bucket11	S3fs1489224886	pool-s3_2	nis-user1-group1	-
nis-user1-group1bucket14	S3fs1489227391	pool-group1	nis-user1-group1	-
nis-user1-group1bucket1	S3fs1489224561	pool-s3_2	nis-user1-group1	-
moonbucket1	S3fs1489224108	pool-s3_2	user1	-
nis-user1-group3bucket1	S3fs1489229942	pool-s3_2	nis-user1-group3	-
scale-out-bucket1	S3fs1489230130	pool-group2	nis-user1-group4	192.168.10.32

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## objectaccess\_group のマニュアルページが見つからない

### 名前

group - 特定のユーザーグループのファイルシステムとバケットを作成するためのグループを設定します。

### 概要

```
group set [fs_sharing|fs_size|fs_type|pools] group_name value
group show [group_name]
group unset group_name [fs_sharing|fs_size|fs_type|pool]
```

### 説明

ObjectAccess group コマンドを使用すると、管理者はデフォルトのファイルシステムの構成パラメータを上書きできます。これにより、オブジェクトアクセスサーバーで特定のユーザーグループのファイルシステムとバケットの作成方法を細かく制御できます。認証サーバー (NIS/LDAP/AD) を使用して新しいグループを作成し、それをこのグループの設定に使用することをお勧めします。

## オプション

```
group set [fs_sharing|fs_size|fs_type|pools] group_name value
```

**fs\_sharing** オプションは、バケットを作成するために新しいファイルシステムを作成するか、既存のファイルシステムを使用するかを決定します。**fs\_size** オプションと **fs\_type** オプションを使用すると、どの構成パラメータも設定されていない場合に、グループに対してファイルシステムのサイズとタイプを設定できます。**pools** オプションを使用すると、バケットを作成する必要があるプールを選択できます。どの構成パラメータも設定されていない場合は、デフォルト設定から選択されます。

```
group show [group_name]
```

すべてのグループの固有の構成を一覧表示します。グループ名を指定すると、そのグループのすべての構成の詳細が得られます。

```
group unset group_name [fs_sharing|fs_size|fs_type|pool]
```

特定のグループに設定されているオプションを削除します。

## 例

グループのプールマッピングを設定します。次の例では、**nis-group1** のすべてのバケットが **pool-group1** に作成されます。

```
earth.ObjectAccess> group set pool nis-group1 pool-group1  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 Set pool successful.
```

グループのファイルシステムのタイプを設定します。

```
earth.ObjectAccess> group set fs_type simple nis-group1 blksize=1024  
  
pdir_enable=no encrypt=off  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 Set pool successful.
```

グループのファイルシステムのサイズを設定します。

```
earth.ObjectAccess> group set fs_size nis-group1 5G  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 Set fs_size successful.
```

グループのファイルシステムの共有を設定します。

```
earth.ObjectAccess> group set fs_sharing nis-group1 yes  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 Set fs_sharing successful.
```

グループのプールマッピングを設定解除します。

```
earth.ObjectAccess> group unset nis-group1 pool pool-group1  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 group unset pool Successful.
```

グループの `fs_sharing` を設定解除します。

```
earth.ObjectAccess> group unset nis-group1 fs_sharing
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 group unset fs_sharing Successful.
```

グループの `fs_type` を設定解除します。

```
earth.ObjectAccess> group unset nis-group1 fs_type
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 group unset fs_type Successful.
```

グループの `fs_size` を設定解除します。

```
earth.ObjectAccess> group unset nis-group1 fs_size
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 group unset fs_size Successful.
```

グループの設定の詳細を表示します。

```
moon.ObjectAccess> group show
Group Name   Fs Sharing   Fs Size     Fs Type     Pool(s)
=====
nis-group1   yes          5G          simple      pool-group1
```

```
moon.ObjectAccess> group show nis-group1
Name         Value
=====
Group        nis-group1
poollist     pool-group1
fs_sharing   yes
fs_size      5G
fs_type      simple
fs_blksize   1024
fs_pdirenable no
fs_encrypt   off
fs_type      simple
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## **objectaccess\_unset** のマニュアルページが見つからない

### **名前**

`unset` - オブジェクトアクセスの設定可能値を削除します。

## 概要

```
unset pools pool1[,pool2,...]
```

## 説明

**ObjectAccess** コマンドは、オブジェクトアクセスの設定可能値を設定解除するために使用されます。

## オプション

```
unset pools pool1[,pool2,...]
```

デフォルトのプールリストからプールを削除します。そのプール内にバケットがある場合は、そのプールの設定解除が失敗します。オブジェクトアクセスには少なくとも 1 つのデフォルトプールが必要なため、すべてのプールの削除はできません。

## 例

プールマッピングを設定解除します。

```
earth.ObjectAccess> unset pools pool-group1  
ACCESS ObjectAccess INFO V-288-0 Unset pools successful.
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## **system\_guidisable** のマニュアルページが見つからない

### 名前

**GUI - guidisable** コマンドは GUI を無効にします。

### 概要

```
guidisable
```

### 説明

**guidisable** コマンドは GUI を無効にします。

### オプション

```
guidisable
```

GUI を無効にします。

### 例

GUI を無効にします。

```
System> guidisable  
Force stopping vamgmt service.  
vamgmt service is not running.
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## **system\_guienable** のマニュアルページが見つからない

### 名前

GUI - guienable コマンドは GUI を有効化または起動します。

### 概要

guienable

### 説明

guienable コマンドは GUI を有効化または起動します。

### オプション

guienable

GUI を起動または有効化します。

### 例

GUI コンソールを有効にします。

```
System> guienable  
Start vamgmt service vamgmt...  
vamgmt service is running.
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## **system\_guistatus** のマニュアルページが見つからない

### 名前

GUI - GUI の状態を確認します。

### 概要

guistatus

## 説明

`guistatus` コマンドは、GUI の状態を確認するために使用されます。

## オプション

`guistatus`

GUI コンソールの状態を確認します。

## 例

GUI コンソールの状態を確認します。

```
System> guistatus
Checking service vamgmt...
vamgmt service is not running.
```

回避策:

マニュアルページは、次のリリースで追加されます。

## ネットワークの問題

このセクションでは、ネットワークに関連する既知の問題について説明します。

### **CVM サービスグループが予期しない障害状態に移行する (3793413)**

この問題は、ストレージの接続が中断され、通常の状態に戻された場合に発生します。Veritas Volume Manager (VxVM) は、「マイナー番号の不一致」の問題が発生した場合にこのノードのクラスタに参加できません。

回避策:

この問題が発生するノードを再起動します。

### **IPv4 と IPv6 が混在する VIP ネットワーク設定の IP 分散で IP タイプが考慮されない (3616561)**

IPv4 と IPv6 が混在する設定の IP 分散では IP タイプが考慮されません。つまり、クラスタ内のノードで IPv6 VIP が使用できない可能性があります。IP 分散では IP のタイプが考慮されます。

回避策:

必要に応じて、ノードに適した IP タイプの VIP をオンラインにします。



## netgroup 検索で、LDAP でエントリが見つからない場合に NIS での検索が続行されない (3559219)

nsswitch 設定の netgroups ルックアップ順序で LDAP の後に NIS が続く場合、netgroup エントリが LDAP で見つからない場合に NIS での netgroup 検索が続行されません。この場合、netgroup を使用して共有をエクスポートすると、NFS クライアントの NFS マウントが失敗します。

回避策:

NIS が LDAP の前になるように netgroups ルックアップ順序を変更します。

```
Network> nsswitch conf netgroups nis ldap
```

## 現在の IPv6 デフォルトゲートウェイインターフェースではないインターフェースにホストされている VIP と PIP が現在の IPv6 サブネットの外部に到達できない (3596284)

デフォルト以外のゲートウェイインターフェースで設定された IPv6 アドレスには、現在のサブネットの外部から到達できません。つまり、現在のデフォルトゲートウェイを使用できません。現在のデフォルト IPv6 ゲートウェイインターフェースでホストされている IPv6 アドレスだけが、ゲートウェイを使用して到達可能です。

回避策:

現在のサブネットの外部のクラスタ通信に、デフォルトゲートウェイインターフェースで現在オンラインではない VIP を使用しないようにします。

## NFS の問題

このセクションでは、NFS の問題について説明します。

### NFS-Ganesha バージョン 4 を使用する Solaris 10 クライアントでパフォーマンスが低下する (IA-1302)

NFS-Ganesha サーバーディレクトリを操作するコマンド mkdir、rmdir、open の場合、Solaris クライアントから実行すると操作に時間がかかります。

回避策:

Solaris プラットフォームでパフォーマンスを重視して作業負荷を処理する場合、カーネルベースの NFS バージョン 3 サーバーを使用してください。

### Linux クライアントを使用した場合に NFS-Ganesha のランダム書き込みパフォーマンスが低下する (IA-1304)

Linux クライアントを使用すると、NFS-Ganesha のランダム書き込みパフォーマンスが低下します。Solaris クライアントを使用すると、パフォーマンスの低下はありません。

回避策:

パフォーマンスを重視したランダム書き込みの作業負荷を処理する場合は、カーネルベースの NFS サーバーを使用してください。

### ノード間の時間が同期されないと、サーバーの最新のディレクトリコンテンツがクライアントに表示されない (IA-1002)

複数のノードから共有が更新されても、実際のサーバーのディレクトリコンテンツがクライアントにすぐに表示されず、表示されるまで時間がかかります。ディレクトリコンテンツのキャッシュの無効化は、ディレクトリの変更時間に基づいています。クラスタのノードの時間が同期されないため、このキャッシュの無効化が表示されます。

回避策:

すべてのノードの時間を同期するようにサーバーの NTP を設定します。

### クラスタノードを再起動すると、NFS> share show で共有がエラーと表示されることがある (IA-1838)

これは、クラスタ全体で NFS-Ganesha サーバーを再起動すると発生する場合があります。進行中の NFS の処理には影響しません。

回避策:

NFS-Ganesha 共有がオンラインと表示されるまでしばらく待ちます。

### NFS 設定のインポート後に NFS-Ganesha 共有に失敗する (IA-849)

System> config import コマンドを使用して NFS 設定をインポートすると、既存のすべての NFS 共有の状態がエラーになります。

回避策:

NFS サービスを再起動します。

### 共有の数が 500 を上回ると、NFS-Ganesha 共有がオンラインにならないことがある (IA-1844)

NFS-Ganesha 共有の数が 500 以上になると、再起動プロセス中に NFS-Ganesha 共有がオンラインにならなったり、オンラインになるまでしばらく時間がかかったりすることがあります。

回避策:

個別の共有を大量に作成するのではなく、ネットグループまたは Kerberos を使用してください。

## NFS-Ganesha で 1 つのパスを複数のクライアントに複数回エクスポートできない (3816074、3819836)

NFS-Ganesha の特定の制限事項により、Veritas Access では、複数のクライアント (同一または異なる権限を持つ) に 1 つのパスを複数回エクスポートできません。

回避策:

ネットグループを使用すると、同じ権限を持つ複数のクライアントに同じパスをエクスポートできます。異なる権限を持つ複数のクライアントに同じパスをエクスポートできません。

## NFS-Ganesha サーバーの場合、大量の共有のオンラインとオフラインの切り替えに時間がかかる (3847271)

NFS-Ganesha サーバーは、大量のリソース (つまり、エクスポートされたファイルシステムのパス) が存在すると、パフォーマンスが低下します。このため、サーバーにエラーが発生すると、リカバリの速度が遅くなることがあります。また、NFS サーバーの始動または停止でも、時間がかかることがあります。

回避策:

NFS-Ganesha サーバーでネットグループを使用します。この問題が発生する場合は、共有の数を減らしてください。この問題は、共有の数が多き場合のみ発生します。

## NFS クライアントアプリケーションがノードの再起動時に無効なファイル処理エラーで失敗する可能性がある (3828442)

ノードを再起動すると、ノードのすべての仮想 IP が再起動したノードに切り替えられてしまいます。ロック情報を保持するため、NFS-Ganesha サーバーがこのノード上で再起動されます。共有が NFS-Ganesha サーバーに戻されるまで、短時間だけ VIP が利用可能になることがあります。このため、無効なファイル処理エラーでアプリケーションが失敗します。

回避策:

このエラーが発生した場合、クライアントは操作の再試行が必要です。

## NFS> share show コマンドがオフライン共有とオンライン共有を区別しない (IA-2758)

NFS> share show コマンドは、オフライン共有とオンライン共有を区別しません。障害のある共有は正しくリスト表示されます。CLISH コマンドのみの使用では、共有の状態 (オンラインまたはオフライン) を判断できません。

回避策

Linux の showmount -e コマンドの出力を使用して、その特定のクラスタノードからエクスポートされた共有のリストを取得できます。

## NFS> share show コマンドと Linux showmount コマンドの出力の違い (IA-1938)

NFS> share show コマンドを使用すると、エクスポートされた NFS クライアントのホスト名が表示されます。Linux showmount コマンドを使用すると、エクスポートされた NFS クライアントの IP アドレスが表示されます。

NFS-Ganesha サーバーは常に指定されたホスト名を IP アドレスに解決し、NFS 共有をその IP アドレスにエクスポートします。カーネルベースの NFS サーバーとは異なり、Linux showmount コマンドは、export コマンドで指定したホスト名の代わりに IP アドレスを返します。これはどの機能にも影響しませんが、出力は 2 つのコマンドで異なります。

回避策:

DNS を使用して、特定の IP アドレスを確認できます。

## ObjectAccess の問題

このセクションでは、ObjectAccess の問題について説明します。

### 5 MB のチャンクサイズで 10 GB のファイルのマルチパートアップロードを行っている際に、オブジェクトアクセスサーバーが障害状態になる (IA-1943)

大きいファイルの場合、チャンクサイズが小さい (5 MB) と、マルチパートアップロード中、大量のパーツの結合を行う際にオブジェクトアクセスサーバーがクラッシュします。

回避策:

Veritas Access は、5 MB から 100 MB までのチャンクサイズをサポートしているため、大きいファイルをアップロードする場合は、最大 100 MB の大きいチャンクサイズの使用をお勧めします。

### SSLS3 経由で S3 サーバーに接続しようとする、クライアントアプリケーションが「SSL3\_GET\_SERVER\_CERTIFICATE:certificate verify failed」のような警告を表示する場合がある (IA-5378)

Veritas Access は自己署名 SSL 証明書を生成します。この証明書は、デフォルトの信頼された CA の一部ではありません。そのため、S3 クライアントはこの証明書を信頼できません。

回避策:

クライアントは警告を無視して、SSL 経由で通信を続行する必要があります。

## クラスタ名に大文字があると、S3 サーバーへのアクセスが失敗する (IA-5628)

クラスタ名に大文字があると、S3 サーバーへのアクセスが失敗します。これは、S3 要求を受け入れるために使用される基本ライブラリの制限によるものです。

回避策:

S3 サーバーにアクセスするには、すべて小文字を使用します。

## クラスタ名が DNS ホスト名の制限事項に従っていない場合、Veritas Access で Objectaccess サービスを使用できない (IA-5631)

クラスタ名には、ハイフンを除くどの特殊記号も含まれません。クラスタ名にハイフン以外の特殊記号があると、DNS ホスト名の制限事項に従っていないため、S3 サービスが機能しません。

回避策:

この問題に対する回避策はありません。Veritas Access クラスタの命名に有効な文字については、以下を参照してください。

<https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc959336.aspx>

## イレージャコーディングファイルシステムが、ファイルシステムに利用可能な空き領域があるにもかかわらず、ファイルシステムがいっぱいと報告することがある (IA-5734)

イレージャコーディングファイルシステムの作成中に、データボリュームとメタデータボリュームが別々に作成されます。データがコピーされる場合は常に、どちらのボリュームでもデータを移動できます。データが存在するボリュームは、配置ポリシーによって決定されます。現時点では、イレージャコーディングレイアウトを使用してファイルシステムを作成中に、配置ポリシーが適切に設定されず、データがメタデータボリュームに格納される場合があります。そのため、メタデータボリュームがすぐにいっぱいになってしまいます。

回避策:

頻繁に grow コマンドを使用して、ファイルシステム内に領域を作成します。

## SSL を有効にすると、仮想ホストスタイルのアドレス指定で ObjectAccess 操作が正しく動作しない (IA-5737)

SSL を有効にすると、仮想ホストスタイルのアドレス指定で ObjectAccess 操作が正しく動作しません。

回避策:

SSL が有効になっている場合は、パススタイルのアクセスを使用します。

## 単一ノードでのオブジェクトアクセスの **server enable** 操作が失敗する (IA-5704)

オブジェクトアクセスの **server enable** 操作は、2 つ以上のノードのクラスタセットアップを前提としています。そのため、**server enable** コマンドは失敗します。

回避策:

この問題に対する回避策はありません。

## OpenStack の問題

次の問題は OpenStack に関連しています。

### CLISH から Cinder と Manila の共有を識別できない (3763836)

OPENSTACK> **cinder share** コマンドを使用して NFS でエクスポートされたファイルシステムと、OpenStack Manila から NFS でエクスポートされたファイルシステムは、CLISH で識別できません。

回避策:

OPENSTACK> **manila resource list** コマンドを使用すると、Manila でエクスポートされた共有のみが表示されます。Cinder の共有のみを表示する方法はありません。

## レプリケーションの問題

このセクションでは、レプリケーションに関連する既知の問題について説明します。

### レプリケーションと重複排除を同じソースに対して実行すると、レプリケーションファイルシステムが特定の状況で失敗する (3804751)

同じソースレプリケーションファイルシステムで次の状況が発生すると、レプリケーションジョブに失敗する場合があります。

1. NFS に I/O の大きな作業負荷が割り当てられている。
2. 並列で実行している重複排除でいくつかの共有エクステンントを作成している。

回避策:

回避策はありません。

## System> config import コマンドでレプリケーションキーとジョブがインポートされない (3822515)

System> config import コマンドは、System> config export コマンドでエクスポートされた設定をインポートします。インポート処理で、レプリケーションレピュニットとスケジュールは正しくインポートされます。コマンドは、キーとジョブのインポートに失敗します。

回避策:

Replication> config import コマンドを最初に実行してから、次の手順を実行します。

- 1 新しいレプリケーション IP が新しいソースで変更されていないため、新しいターゲットがレプリケーション IP をバインドしていることを確認します。
- 2 Replication> config import\_keys コマンドをソースとターゲットで実行します。
- 3 Replication> config auth コマンドをソースとターゲットで実行します。
- 4 新しいソース (/shared/replication/jobs # rm -rf jobname/) ジョブディレクトリを削除します。
- 5 新しいソースからジョブを作成します。

## ジョブが SSL 証明書エラーのリンクを削除および追加した後、暗号化のレプリケーションジョブに失敗する (3839319)

暗号化ですでに設定されたジョブからリンクを削除し、同じジョブに新しいリンクを再び追加すると、次のレプリケーションサイクルでエラーが発生して失敗します。

SSL certificate error.

回避策:

この問題を解決するには次の手順に従います。

- 1 Replication> job remove\_link コマンドを実行し、ソースとターゲットで CLISH プロンプトを終了します。
- 2 ソースとターゲットの両方のクラスタノードでリンク (ln -s /shared/replication/SSL/cluster\_cert /opt/VRTSfsadv/cert) を作成します。
- 3 Replication> job add\_link コマンドを実行して、ジョブにリンクを戻し、レプリケーションジョブを有効または同期します。

## レプリケーションジョブのステータスに削除されたリンクのエントリが表示される (3797560)

複数のターゲットジョブのレプリケーションターゲットを削除する場合に、`Replication> job remove_link` コマンドを使用しても、単に削除のマークが付けられるだけです。次のレプリケーションの反復処理中に、リンクが実際に削除されます。

リンクが完全に削除されるまで、`Replication> job show` コマンドで削除されたリンクの以前のステータスが表示されます。

回避策:

`Replication> job show` コマンドを使用すると、リンクがいつ完全に削除されたのかを確認できます。

## レプリケーションフェールオーバー後にジョブがターゲットのスケジュールを使用する (3668957)

この問題は、ソースクラスタとターゲットクラスタのスケジュールが同じでも、間隔が異なる場合に発生します。ターゲットに対するレプリケーションがフェールオーバーしても、ジョブはターゲットのスケジュールを使用します。

回避策:

ソースクラスタとターゲットクラスタで同じスケジュール名を使用しないでください。

## ターゲットノードがフェールオーバーすると、レプリケーションが「connection reset by peer」のエラーで失敗する (IA-3290)

レプリケーションは、ソースとターゲット間の接続を作成して、データを複製します。レプリケーションでは、ターゲットからのノードのいずれかを使用してファイルシステムにアクセスし、データを複製します。再起動などの何らかのエラーにより、このノードへの接続が切断されると、レプリケーションはエラーメッセージを表示して失敗します。スケジュールされたレプリケーションジョブがある場合、おそらくはターゲットから新しいノードを使用して、次の反復処理でもこの失敗したレプリケーションセッションが続行されます。

回避策:

スケジュールされたレプリケーションジョブがない場合は、ターゲットノードが起動したら、`Replication> job sync` コマンドを発行してレプリケーションジョブを開始する必要があります。

## レプリケーションジョブの修正に失敗する (IA-3356)

レプリケーションには、ターゲット側で複数の回復ポイントの目標 (RPO) レポートを持てます。`Replication> job modify rep_dest_ckpt_cnt` コマンドは、RPO を制御します。デフォルト値は 10 です。ターゲット側に RPO を配置するとターゲット側でいくらか



の領域が使用されるため、レプリケーションが ENOSPC エラーで失敗することがあります。この場合、レプリケーションのジョブ変更コマンドは失敗します。

回避策:

ターゲットファイルシステムを拡張して空き領域を増やします。レプリケーションジョブを変更して、適切な `rep_dest_ckpt_cnt` 値を設定します。現在のレプリケーションセッションが正常に完了するまで、この変更された値は有効にはなりません。変更された値が適用されると、既存の RPO が新しい値に合わせて調整されます。

## SmartIO の問題

次の問題は、Veritas Access の SmartIO コマンドに関連しています。

### ファイルシステムの SmartIO のライトバックキャッシュモードが、ファイルシステムをオフラインにしてからオンラインにすると、読み取りモードに変わる (IA-3423)

SmartIO 機能を使用すると、ファイルシステムでライトバックまたは読み取りのキャッシュモードを設定できます。ファイルシステムでキャッシュモードを設定すると、ファイルシステムがオンラインの間はそのモードが保持されます。ファイルシステムがオフラインになってから再度オンラインになると、前のキャッシュモードは保持されず、読み取りキャッシュモードにリセットされます。

回避策:

ファイルシステムがオンラインになったら、手動でキャッシュモードを再度設定します。

## ストレージの問題

次の問題は、Veritas Access のストレージコマンドに関連しています。

### スナップショットのクォータが設定されている場合、スナップショットのマウントに失敗することがある (IA-1542)

スナップショットのクォータが設定されていて、スナップショットのディスク使用状況がクォータのハード制限に到達した場合、削除可能なスナップショットが存在する場合でも、チェックポイントのマウントに失敗することがあります。ファイルシステムの領域が不足した場合、またはスナップショットのクォータを超えた場合、スナップショット操作でスナップショットの削除をトリガして、ディスク容量を解放できます。しかし、スナップショットのマウントではこの領域のクリーニング処理をトリガできないため、スナップショットのマウントに失敗することがあります。

回避策:

最も古いチェックポイントを削除して、再試行してください。

## Storage> pool rmdisk コマンドがメッセージを出力しない場合がある (IA-1733)

まれな状況ですが、出力のリダイレクトの問題により、Storage> pool rmdisk コマンドでエラーメッセージまたは成功のメッセージのいずれも出力されない場合があります。

回避策:

history コマンドを使用して、コマンドの状態を確認します。Storage> pool list コマンドを使用して、ディスクがプールから削除されたかどうかの確認もできます。

## Storage> Pool rmdisk コマンドで、ファイルシステム名が出力されないエラーが発生することがある (IA-1639)

削除されるディスクに NLM がある場合、Storage> pool rmdisk コマンドはそれを異なる方法で処理し、ファイルシステム名は出力されません。このエラーが発生するかどうかは、プールサイズ、NLM でのディスクの使用法、ディスク全体の拡散など、いくつかの要因に依存します。

回避策:

回避策はありません。

## CIFS ホームディレクトリのリストに新しく追加されるファイルシステムのクォータを有効にできない (IA-1851)

新しいファイルシステムを CIFS ホームディレクトリとして追加する場合、クォータはデフォルトで有効化されていません。

回避策:

CLISH から、次のコマンドを実行します。

```
Storage> quota cifshomedir disable
```

```
Storage> quota cifshomedir enable
```

## ファイルシステムを破棄しても、マウントポイントの /etc/mstab エントリが削除されないことがある (3801216)

ファイルシステムを破棄すると、/etc/mstab エントリも削除される必要があります。ファイルシステムの umount コマンドで破棄処理中にハングアップすると、/etc/mstab エントリが削除されない場合があります。ファイルシステムは破棄されますが、同じ名前の新しいファイルシステムは作成できません。

回避策:

クラスタノードを再起動します。

## Storage> fs online コマンドはエラーを返すのに、ファイルシステムは数分後にオンラインになる (3650635)

Storage> fs online コマンドが次のエラーを返します。

```
access.Storage> fs online fs1
```

```
ACCESS fs ERROR V-288-1873 filesystem fs1 not mounted on nodes  
access_01 access_02.
```

多くのチェックポイントを持つファイルシステムをマウントすると、Veritas Cluster Server (VCS) リソースが 100 秒以上応答しなくなることがあります。このため、CFS コマンドがタイムアウトになります。

回避策:

オンラインのエラーが報告されても、ファイルシステムはオンラインになります。

## DCO が存在する場合にプールからディスクを削除できない (3452098)

ファイルシステムを作成するときにコマンドラインでディスクを指定すると、Veritas Access が指定されていないディスクにデータ変更オブジェクト (DCO) を作成することがあります。プール内に空きディスクがある場合、Veritas Access は空きディスクを DCO 用に優先します。DCO は、ミラーと元のボリュームとの同期を処理するために必要です。DCO は、データボリュームを含むディスクに障害が発生した場合に使用されます。

プールからディスクを削除しようとする、そのディスクが DCO によって使用されているため、次のエラーが表示されます。

```
SFS pool ERROR V-288-2891 Disk(s) sde are used by the following:  
DCO of primary tier of fs_mirror, Primary tier of filesystem fs_mirror
```

回避策:

回避策はありません。

## df コマンドでファイルシステムに利用可能な領域があると表示されるのに、スケールアウトファイルシステムが ENOSPC エラーを返す (1A-3545)

Linux の df コマンドでファイルシステムに利用可能な領域があると表示されるのに、スケールアウトファイルシステムが ENOSPC エラーを返す。

これは、次のいずれかの場合に発生します。

- スケールアウトファイルシステムが、ストレージコンテナ間でデータを分散するハッシュアルゴリズムを使用している。このアルゴリズムは、データがすべてのコンテナ間で均一に分散されているかを確認します。データの種類に応じて、ストレージコンテナの

1 つが他のコンテナよりも頻繁に使用されます。スケールアウトファイルシステムの使用率が他よりも早く 100% に到達します。この場合、コンテナが 100% になるまで割り当てると、ENOSPC エラーが返されます。

- スケールアウトファイルシステムが、メタデータコンテナと複数のデータコンテナで構成されている。メタデータコンテナの領域は、ファイルシステムの作成時に割り当てられます。データコンテナが一杯で、メタデータコンテナに利用可能な領域があっても、ファイルシステムはメタデータコンテナの利用可能な領域を使用しません。このため、Linux の df コマンドでまだ利用可能な領域があると表示されるのに、アプリケーションがファイルシステムに書き込むと、ENOSPC が表示されます。

回避策:

ファイルシステムを拡張します。

### Storage> fs growby または growto コマンドの実行後にロールバックの更新を実行すると失敗する (3588248)

Storage> fs growby コマンドまたは Storage> fs growto コマンドを実行した後にロールバックの更新を実行すると、失敗します。

ファイルシステムのロールバックを作成します。ファイルシステムのロールバックを作成したら、Storage> fs growby コマンドまたは Storage> fs growto コマンドを使用して、ファイルシステムのサイズを増やします。以前に作成したロールバックで Storage> rollback refresh を実行すると、操作は失敗します。

現在、Storage> rollback コマンドは、Storage> rollback refresh コマンドでソースのファイルシステムと同じサイズを使用することのみを許可するように設計されています。ロールバックの更新を実行する前にスナップショットを自動的にサイズ変更するのは複雑です。ストレージプールに十分な領域がない場合には特に複雑になります。スナップショットを自動的にサイズ変更する機能はまだ実装されていません。

回避策:

回避策はありません。

### エクスポートされた DAS ディスクがエラー状態の場合、ローカルノードに ERR が表示され、Storage> list でリモートノードに NOT\_CONN が表示される (IA-3269)

エクスポートされた DAS ディスクがエラー状態になると、そのプロパティはリモートノードで利用できなくなります。Storage> disk list コマンドは、リモートノードに NOT\_CONN を表示します。

回避策:

回避策は不要です。ディスクがローカルノードでオンラインになると、すべてのノードでオンラインになります。

## I/O フェンシングを無効にすると、管理サービスが停止したクラスタで状態に一貫性がなくなる (IA-3427)

いずれかのノードが停止している場合に I/O フェンシングを無効にすると、Veritas Access クラスタの状態に一貫性がなくなります。

回避策:

回避策はありません。I/O フェンシングを無効にするときに、クラスタ内のすべてのノードが起動していることを確認します。

## ノードの Storage> tier move コマンドのフェールオーバーが機能しない (IA-3091)

Storage> tier move コマンドは、実行しているノードが停止した場合に、別のノードにフェールオーバーしません。

回避策:

CLISH からもう一度 Storage> tier move コマンドを実行します。

## Storage> scanbus 操作が I/O フェンシング操作時にハングアップする (IA-3257)

Storage> scanbus 操作は、I/O フェンシング操作中にハングアップします。

回避策:

回避策はありません。ベリタステクニカルサポートまでご連絡ください。

## 各キャッシュオブジェクトがいっぱいになると、ロールバックサービスグループが障害状態になり、状態を消去する方法がない (IA-3251)

この問題は、キャッシュオブジェクトがいっぱいになった後の I/O エラーに関係しています。キャッシュバックされたロールバックの場合、高い I/O によりキャッシュがいっぱいになると、スナップショットで I/O エラーが発生し、スナップショットがメインのファイルシステムから自動的に切断されます。スナップショットが障害状態になります。この問題を修正するには、障害があるロールバックの状態をクリアしてロールバックの更新を行う必要があります。これらのケースを処理する CLISH コマンドはありません。ロールバックを保持するには、ベリタステクニカルサポートによる手動操作が必要です。

回避策:

回避策はありません。

## CLISH でロールバックキャッシュ拡張オプションが見つからない (IA-3240)

この問題は、キャッシュがいっぱいになり、キャッシュ拡張操作でロールバックが障害状態になることを回避できる場合に関係します。CLISH でロールバックキャッシュ拡張のコマンドを追加するための拡張要求があります。

回避策:

回避策はありません。

## キャッシュオブジェクトがいっぱいになると、イベントメッセージが生成されない (IA-3239)

この問題は、ロールバックキャッシュがいっぱいになるシナリオの顧客に表示されるイベントに関係します。

回避策:

回避策はありません。

## Veritas Access CLISH インターフェースで、同じファイルで解凍と圧縮操作を同時に実行できないようにする必要がある (IA-2995)

Veritas Access CLISH インターフェースは、圧縮または解凍操作のいずれかが実行されている場合に、操作をブロックしません。これは従来の動作で、将来のリリースでの修正が必要です。

回避策:

ファイルで圧縮または解凍操作のいずれかが実行されている場合は、同じファイルで同時に圧縮または解凍操作を開始しないでください。

## ストレージデバイスが SIGBUS 信号で失敗し、スケールアウト型ファイルシステムデーモンの異常終了が発生する (IA-2915)

ストレージデバイスに障害が発生し、SIGBUS 信号 (バスエラー) が送信されると、スケールアウト型ファイルシステムデーモンの異常終了が発生します。リカバリプロセスでは、スケールアウト型ファイルシステムと関連付けられているファイルシステムの NFS 共有の仮想 IP が、宣言されている同じノードに移行されません。NFS クライアントでの Linux `df` コマンドの出力には、マウントされたスケールアウト型ファイルシステムの NFS 共有の不正なサイズと使用状況 (Size Used、Avail、Use%) が示されます。

この状況が発生した場合は、問題を解決する前に、スケールアウト型ファイルシステムの NFS 共有を使用して、アプリケーションを停止する必要があります。

回避策:

Veritas Access 管理コンソールにログオンして、スケールアウト型ファイルシステムの NFS 共有を再エクスポートし、CLISH コマンドを実行して NFS 共有を削除してから再度追加します。必要に応じて、アプリケーションの NFS クライアントにも NFS 共有を再マウントします。

### クラスタノードのいずれかが再起動されると、Storage> tier move list コマンドが失敗する (IA-3241)

クラスタノードがバックアップされ実行されるまで、Storage> tier move list コマンドは失敗します。

回避策:

回避策はありません。

### Storage> fs policy add にフィルタ基準として指定されたパターンが、基準に当てはまらないファイルを誤って転送することがある (IA-3432)

この問題は、Storage> fs policy add コマンドの使用時に、\*\*/\*.txt パターンがフィルタ基準として指定された場合に発生しました。ポリシーが実行されたときに、txt ディレクトリ内の .txt のファイル拡張子を持たない一部のファイルが、転送または削除のために選択されました。.txt の拡張子を持たないファイルが、転送または削除のために選択されないことが想定されています。

回避策:

回避策はありません。

### Storage> fs policy resume の発行後にポリシーの実行が完了すると、データの合計とファイルの合計数が、Storage> fs policy status に示されている移動されたデータとファイル数と一致しない場合がある (IA-3398)

Storage> fs policy pause コマンドは、ポリシーの実行を即時停止します。このコマンドの実行中にファイルが転送されていた場合、このコマンドは転送の完了を停止しません。Storage> policy run コマンドの状態をレポートする間、Veritas Access は、Storage> fs policy pause コマンドが実行されたときに移動中だったデータサイズとファイル数を考慮しません。

回避策:

同じポリシーの Storage> fs policy dryrun をもう一度実行して、転送中に失われたファイルがあるかどうかの確認が必要です。Storage> tier mapfiles コマンドと Storage> tier listfile コマンドを使用して、ファイルの場所の確認もできます。

## Storage> fs-growto コマンドと Storage> fs-growby コマンドは、分離されたディスクでエラーが発生する (IA-4061)

Storage> fs growto コマンドと Storage> fs growby コマンドは、十分な領域がある場合でも、「Not enough space」エラーが発生します。次のシナリオでは、操作が失敗します。

1. ファイルシステムは通常のプールで作成されるが、分離プールからのディスクが、fs growto 操作と fs growby 操作に提供される。
2. ファイルシステムは分離プールに作成されるが、通常のプールまたは別の分離プールからのディスクは、fs growto 操作と fs growby 操作に提供される。

回避策:

ファイルシステムが通常のプールで作成される場合、通常のプールからのディスクを fs-growto 操作と fs-growby 操作に提供します。分離プールでファイルシステムが作成される場合、ディスクを同じ分離プールに追加して、それらを fs growto 操作と fs growby 操作に提供します。

## Storage> fs addcolumn 操作が失敗しても、エラー通知が送信されない (IA-5434)

Storage> fs addcolumn 操作は、バックグラウンドで失敗しますが、エラーメッセージが CLISH に存在しないため、失敗の通知が送信されません。失敗の原因の 1 つは、指定されたプールに十分なストレージがないことです。

回避策:

必要なカラム数が追加されない場合は、十分なストレージを追加した後もう一度試してください。

## 階層化が存在する場合に、領域最適化されたロールバックを作成できない (IA-5690)

階層化されたファイルシステムでは、領域最適化されたロールバックの作成に失敗します。失敗は、プライマリティアで fastresync が有効化されているのに、セカンダリティアで fastresync が有効化されていない場合に発生します。

次のシナリオでは、セカンダリティアで fastresync が無効化されています。

1. ティアがミラー化されているが fastresync が手動で無効化されている。
2. ティアがシンプルまたはストライプで fastresync が有効化できない。

回避策:

セカンダリティアがミラー化されている場合は、そこで fastresync を有効化します。



セカンダリティアがシンプル (またはストライプ) でプライマリティアがミラー化されている場合、ミラーをセカンダリティアに追加します。

プライマリティアで `fastresync` が有効になっている場合は、セカンダリティアでも `fastresync` が有効化されていることを確認します。

## AWS の問題

次の既知の問題は、AWS サポートに関係します。

### **EBS ディスクが AWS コンソールから強制的に切断されると、CLISH storage コマンドがハングアップするようになる (IA-5042)**

AWS コンソールから EBS ディスクを強制的に削除すると、コマンドの実行速度が低下するなどの予期しない動作につながる可能性があり、クラスタノードの再起動が必要になる場合があります。そのため、CLISH storage コマンドがハングアップしているように見えます。

回避策:

AWS コンソールから EBS ボリュームを切断する際のガイダンスについては、ベリタステクニカルサポートにお問い合わせください。

### **クラスタモードが CTDB に設定されていると、CIFS server start コマンドがいずれかのノードで失敗する**

CTDB クラスタモードの CIFS サーバーは、起動される CTDB デーモンに依存します。CTDB デーモンは、いずれかのノードでのリカバリプロセス中にスタックします。通常、VCS が CTDB の起動を試みる 1 番目のノードには、オンライン状態の CIFS と CTDB の両方があるのに対し、2 番目のノードはオフライン状態のままです。

回避策:

回避策はありません。標準のクラスタモードで CIFS 共有にアクセスできます。

# ヘルプの入手

この章では以下の項目について説明しています。

- [オンラインヘルプの表示](#)
- [マニュアルページの表示](#)
- [Veritas Access 製品マニュアルについて](#)

## オンラインヘルプの表示

疑問符アイコンをクリックすると、Veritas Access の管理コンソールからオンラインヘルプにアクセスできます。

## マニュアルページの表示

Veritas Access コマンドは、システムコンソール、または SSH (Secure Socket Shell) を使用したセッションを介して Veritas Access にアクセスできるホストから入力できます。

Veritas Access は、コマンドラインでコマンドを入力するときに役立つ次の機能を提供します。

- コマンドと疑問符 (?) を入力してコマンドラインのヘルプを表示
- man とコマンド名を入力してコマンドラインのマニュアルページを表示
- マニュアルページを終了するには q (終了) を入力します。

## Veritas Access 製品マニュアルについて

最新バージョンの Veritas Access 製品マニュアルは、SORT (Veritas Services and Operations Readiness Tools) の Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

適切なマニュアルを見つけるには製品とプラットフォームを指定して、その他のフィルタを適用する必要があります。

最新バージョンのマニュアルを閲覧していることを確認してください。マニュアルのバージョンは各ガイドの 2 ページ目に記載されています。発行日は、各マニュアルの表紙に記載されています。マニュアルは誤記の訂正や修正を反映するために定期的に更新されます。

このリリースのマニュアルの変更点については、『Veritas Access リリースノート』を参照してください。

以下のマニュアルは SORT サイトで入手できます。

- Veritas Access Amazon Web Services クラウドストレージ階層化ソリューションガイド
- Veritas Access Amazon Web Services クイックスタート配備ガイド
- Veritas Access スタートガイド
- Veritas Access インストールガイド
- Veritas Access NetBackup ソリューションガイド
- Veritas Access クイックスタートガイド
- Veritas Access リリースノート
- Veritas Access RESTful API ガイド
- Veritas Access サードパーティの使用許諾契約
- Veritas Access トラブルシューティングガイド